

(別添)

山口県済生会豊浦病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定

【山口県済生会豊浦病院の基本情報】

医療機関名：山口県済生会豊浦病院

開設主体：社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会

所在地：山口県下関市豊浦町大字小串7番地3

許可病床数：275床

（病床の種別）一般病床186床、療養病床89床

（病床機能別）急性期155床、回復期31床、慢性期89床

稼働病床数：275床

（病床の種別）一般病床186床、療養病床89床

（病床機能別）急性期155床、回復期31床、慢性期89床

診療科目：内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、心療内科、小児科、
外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

職員数：306.6人（常勤換算数、以下同様）

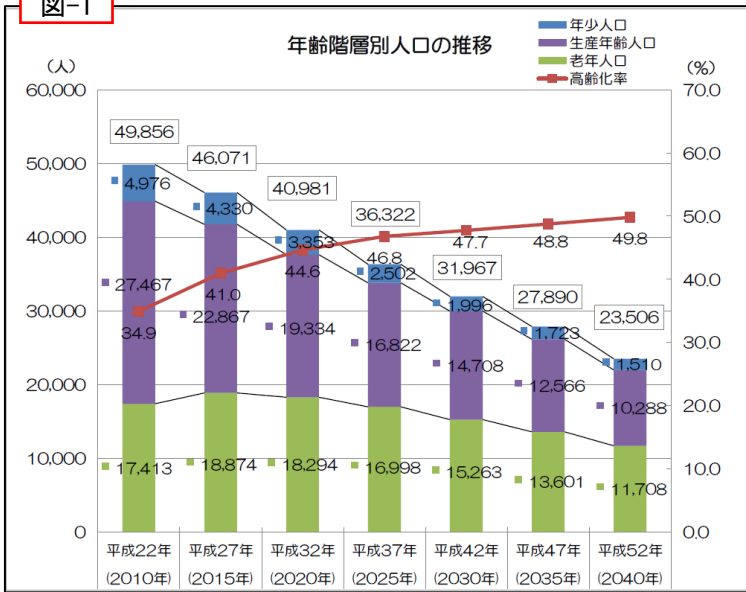
- ・ 医師 20.4人
- ・ 看護職員 148.5人
- ・ 専門職 43.0人
- ・ 事務職員 40.2人
- ・ その他職員 54.5人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

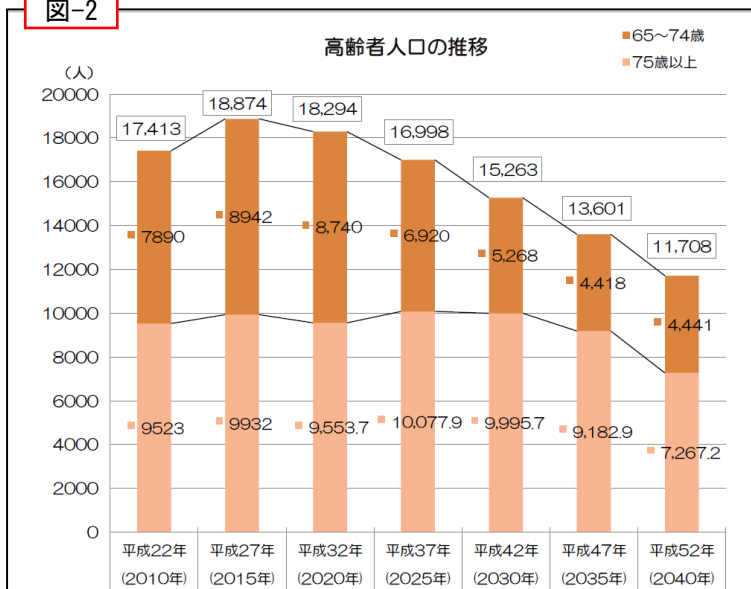
当院の主要な医療圏は下関北西部の北浦地域4町（豊浦町・菊川町・豊田町・豊北町）及び吉見地区である。当該区域は人口減少に歯止めがかからず、また、少子高齢化の傾向が顕著であり、高齢化率は既に40%超に達している。今後とも人口減少、少子高齢化傾向は継続するものと考えられる。（図-1、図-2参照）

図-1



※2015年～2025年の10年間で、当該区域の人口は20%超減少の見込みの一方で、高齢化率は41%から47%と増加する見込みで、人口減少・少子高齢化が加速していく見込み。

図-2

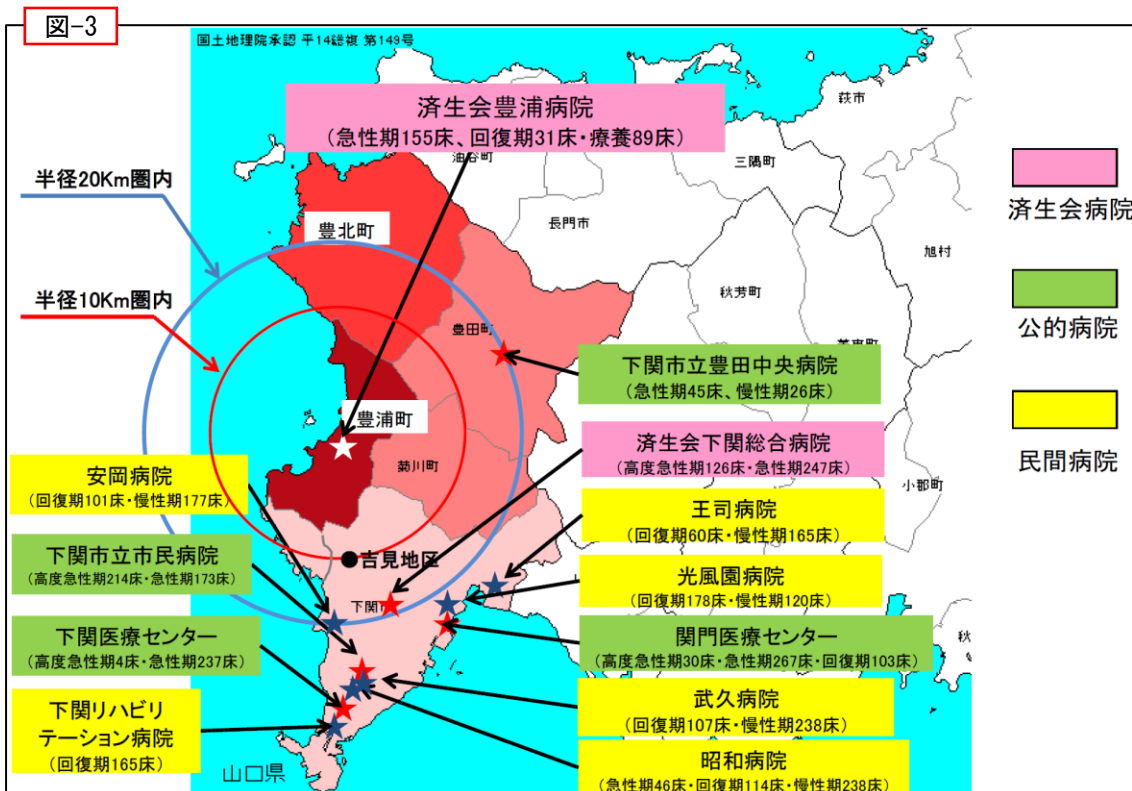


※高齢者人口も2015年頃をピークに減少していく見込み。

当該区域の医療需要は、少子高齢化の進展に伴い、高度急性期・急性期機能より回復期機能、慢性期機能の方が高い。

人口減少に伴い医療需要はやや弱含みではあるものの、当該区域に核となる総合病院が当院の他にない（図-3参照）ことから、病院の規模に対しては当面一定の医療需要は見込めるものと考えられる。

当該区域の医療提供体制についてみると、高度急性期医療は主として当該区域外の下関市内4大病院が担っており、当該区域においては当院を核として、主に急性期～慢性期、在宅をみている。なお、回復期機能については当該区域含め下関保健医療圏全体として不足しており、2025年に向けてその確保が求められている。



※下関市中心部（南部）に医療機能が集中しており、当該区域の医療資源は限られている。

② 構想区域の課題

前述の通り、現状高度急性期医療の提供については当該区域内では対応することが困難で、当該区域外の4大病院が担っている一方で、4大病院から当該区域への患者の流入は限られており、長期的には人口減少とともに医療需要の減少が考えられる中にあることは、当該区域全体として4大病院との機能分化・連携が必要である。

また、下関市は県内最大規模の自治体でありながら医学部を有しておらず、医師の供給は大学医局からの医師派遣に大きく依存していることに加え、当該区域は下関市中心部から距離があることもあり、慢性的な医師不足に陥っていることから、持続可能な医師確保策を講じるのが急務となっている。

③ 自施設の現状

<理念>

1. 「救療済生」の精神に基づき、人々に愛をもって接します。
1. 患者様本位の良質な医療の提供を実践します。
1. 地域の医療・保健・福祉の礎となるよう努力します。
1. 医療を通じて、生き生きのびのびとした豊かなまちづくりに貢献します。

<基本方針>

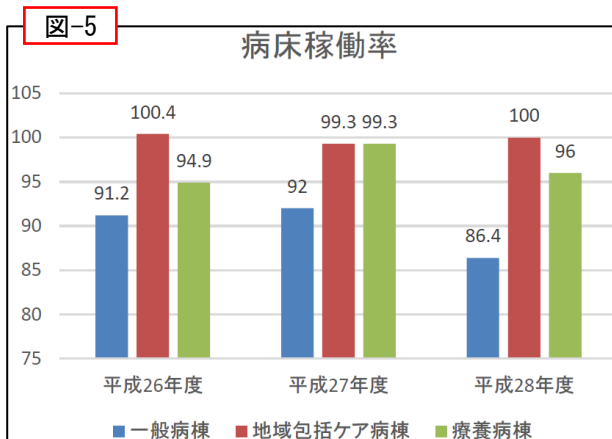
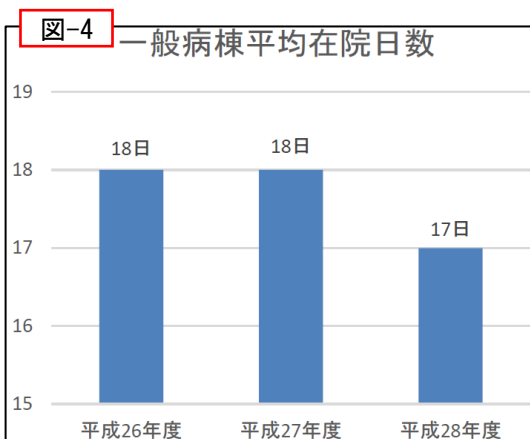
1. 患者様と一緒に考え、一緒に病と闘う、心のこもった納得のいく医療を心がけます。
1. 明るい職場から生まれる、温かく思いやりに満ちた心で患者様に接します。
1. 常に知識・技術向上のための研鑽を積み、質の高い医療を提供します、
1. 地域社会のニーズに応え、住民の心身の健康増進に努めます。
1. 健全な運営と療養環境の充実を図り、地域社会から信頼される病院を目指します。

<届出入院基本料>

- ・一般病棟入院基本料（10対1）
- ・療養病棟入院基本料（20対1、25対1）
- ・地域包括ケア病棟入院料1

<平均在院日数・病床稼働率>

平均在院日数、病床稼働率とも相応の実績を維持しており、地域における必要度は高いものと思料される。（図-4、図-5参照）



<当院の患者層及び当該区域における当院の役割>

高度急性期医療は主として当該区域外の下関市内4大病院が担っており、当院では主に急性期～慢性期、在宅をみている。

直近3年間の疾患推移をみるに、当院入院患者の疾患は多岐に亘っており、当該区域唯一の総合病院として、幅広い疾患に対応している。（図-6参照）

また、救急医療についても年間900件前後の救急患者を受け入れており、当該区域において当院が果たしている重要な医療機能の1つとなっている。（図-7参照）

図-6

直近3年間のICD-10大分類別疾患推移

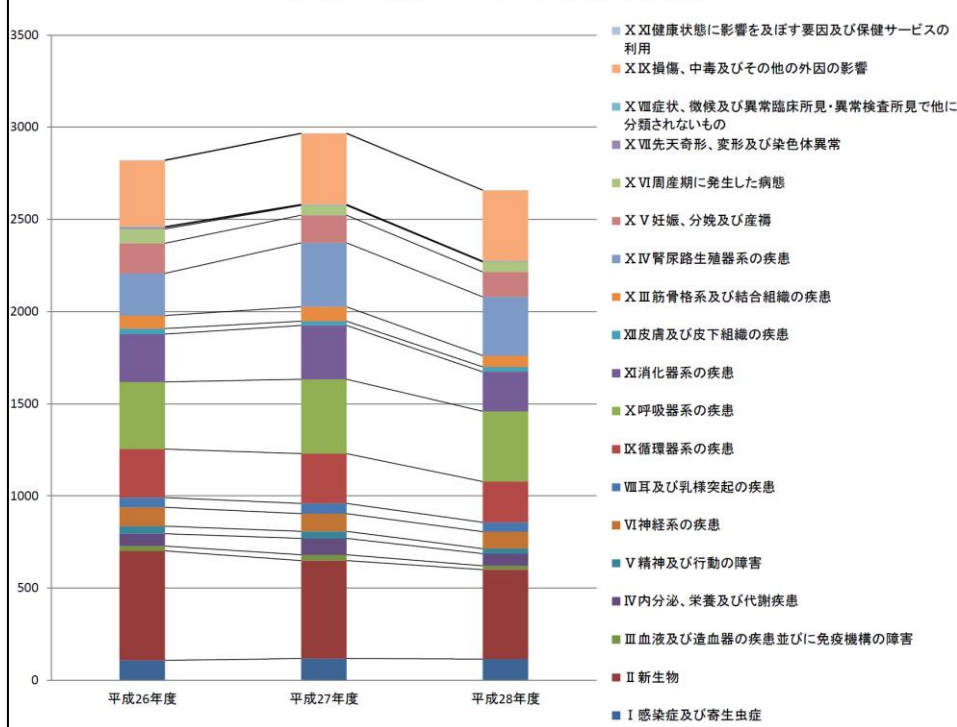
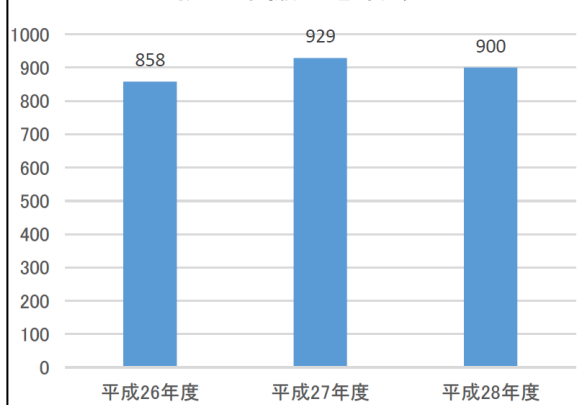


図-7

救急車搬入患者数



④ 自施設の課題

地域において当院に求められているのは、安心・安全な医療サービスの提供体制の維持、充実である。

前述の通り、当該区域は人口減少・少子高齢化の傾向が顕著であることから、当該区域の医療ニーズの変化に合わせて、回復期機能を現状よりも更に充実させていくことが必要である。

また、慢性的な医師不足に陥っていることから、持続可能な医師確保策を講じる必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

下関市北西部の少子・高齢化、人口流出、過疎化等が進む人口45,000人強の広範囲な地域をエリアとする唯一の基幹病院として、二次救急にも対応し、急性期の医療の質を確保するとともに、地域の高齢化に対応するため、回復期・慢性期・在宅の充実が必要とされている。

平成30年度開院予定の新病院に対する地域の期待度・関心度の高さに応えるため、地域住民に対し「住み慣れた環境の中で保健・医療・福祉の面で生涯をトータル的にサポートする病院」であり続けることを目指し、公的病院として、併設する下関市豊浦地域ケアセンターと共同して事業を進め、地域包括ケアシステムの構築を目指していくことが当施設の役割であり使命であるとする。

そして、より一層地域医療へ貢献するために、高度急性期を担う下関市内4大病院との関わり・連携を強化するとともに、回復期機能の充実を検討する。

② 今後持つべき病床機能

地域の医療需要に鑑み、将来的には急性期機能の一部を回復期機能へ転換することを検討する必要がある。また、療養病棟については、今後の診療報酬改定で算定要件の厳格化、廃止等も予想されることから、障害者対象病棟等への転換を含めその在り方を検討する必要がある。

③ その他見直すべき点

現状の病院機能を維持する為には医師数が不足していることから、医師養成機関との連携強化を図りつつ、指導体制を整備し臨床研修医の確保・養成を積極的に推進し、適正な医師数の確保に努める必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	155		144
回復期	31		45
慢性期	89		86
(合計)	275		275

※現在病院建替工事中で、2018年7月に新病院開院予定。地域の医療需要に鑑み、新病院は上記「将来(2025年度)」記載の通りの病床編成とした。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○新病院建物建設中。	○新病院での運用プラン策定。	2年 間程 で 業 中 的 な 検 討 を 促 進
2018年度	○新病院開院に向け準備。	○2018年7月より新病院稼働。 (当年度中に旧病院建物取り壊し)	
2019～2020 年度			第7期 介護保険 事業計画 第7次医療計画
2021～2023 年度			第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率：91% ・ 手術室稼働率：25% ・ 紹介率：40% ・ 逆紹介率：30% <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率： ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： <p>その他：</p>

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--